宮崎市まちなか将来ビジョン 概要版

楽しみがあふれ、多様な人材や企業等が交流し、活動する開かれたまち
～OPEN CITY MIYAZAKI～

SMILE MIYAZAKI

○ 目的・位置づけ

このビジョンは、これまでの中活基本計画や推進プランに基づく取組の成果等を踏まえ、中長期的な視点に立った“目指すべき将来像”と“理念”、その実現に向けた大きな“方向性”を示すグランドデザイン(全体構想)として、広く提示することを目的としています。

また、その目指すべき将来像を実現するためには、地域内外の様々な関係者が主体となって取り組む必要があります。

○ 計画期間

2025年（令和7年）4月～2035年（令和17年）3月まで
10年間（随時見直し）

○ 対象区域

今後果たすべき役割や将来的に期待される機能等を考慮し、本ビジョンの対象区域を設定します。

- まちなか活性化推進計画における中心市街地エリア
- 本ビジョンにおける中心市街地エリア
- 追加エリア

中心市街地の現状と課題

(1)都市のスポンジ化・老朽建築物の増加

(2)宮崎駅周辺の賑わいが中心市街地全体に波及していない

(3)中心市街地の求心力の低下

(4)持続可能なまちづくりが求められている

施策の方向性

(1)民間投資の促進

～投資が投資を呼び込むまちづくり～

(2)まちなかウォーカブルの推進

～安全・快適で回遊を活性化させる仕掛けづくり～

(3)民間主導・行政支援による公民連携の推進

～挑戦やイノベーション創出・エリアマネジメントの推進～

(4)持続可能な都市環境モデルの創出

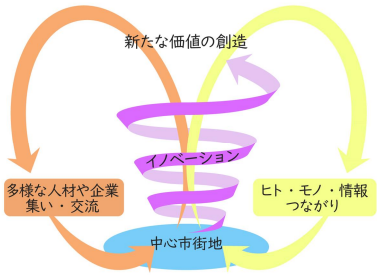
～ゼロカーボン・スマートシティに繋がる新たなまちづくり～

基本理念

楽しみがあふれ、多様な人材や企業等が交流し、活動する開かれたまち
～OPEN CITY MIYAZAKI～

多様な人材や企業が集い、交流できる“中心市街地”は「新たな価値の創造やイノベーション」に繋がる活動の土壌が形成され、新たな魅力や価値を高める呼び水となり、ヒト・モノ・情報がより集積するエリアとなることが期待されます。

また、「訪れて・歩いて・暮らして楽しいエリア」として、将来を担う若い世代や投資意欲の旺盛な企業等に選ばれ、人口減少社会に起因する様々な課題解決に向けた拠り所となるよう、様々な主体が連携した積極果敢な挑戦を促し、本市の更なる発展を牽引するエリアであることが求められます。



宮崎市まちなか将来ビジョン 概要版

楽しみがあふれ、多様な人材や企業等が交流し、活動する開かれたまち
~OPEN CITY MIYAZAKI~

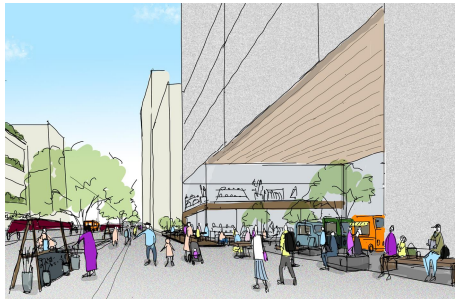
SMILE MIYAZAKI

面的 なまちづくりの誘導方針

拠点エリア

Ⅰ 駅連携エリア

鉄道駅やバスターミナルの交通結節機能を生かして、移動や買い物等の利便性の持続的な充実・向上に努め、外に開かれた魅力と賑わいの拠点づくりを目指します。



Ⅱ 橘通り・ニシタチエリア

本市のメインストリート「橘通り(国道220号)」と県内最大の歓楽街「ニシタチ」を中心として、飲食・物販・宿泊等の多様な集客施設の立地を促進させ、「食」と「酒(焼酎)」の宝庫である本市の"まちなか観光地"として、昼夜を通して安全で快適に来街しやすい賑わい空間づくりと魅力ある都市環境の構築を目指します。

Ⅲ 新複合エリア

錦本町旧県有地グラウンドにおける開発を契機としたスポーツ、情報、高等教育(大学)、医療など、複合的な新たな都市機能の集約により、中心市街地における新たな賑わいと回遊を生み出す拠点づくりを目指します。

Ⅳ ウェルカムゲートエリア

大淀川から中心市街地への玄関口にあたるシンボリックなエリアであり、新庁舎が建設されることから、橘公園や大淀川の親水空間も活かした交流拠点としての役割を担える都市環境づくりを目指します。

Ⅴ 公民連携エリア

都市公園や自転車歩行者専用道路、大淀川の親水空間等については、人々の癒し・憩い・くつろぎなどを与える空間として、その機能向上を目指し、民間と連携した新たな魅力や賑わい創出のための仕掛けづくりの検討を進めます。

まちなか投資倍増エリア

オープンスペース等が確保された魅力ある都市空間の形成や建物の更新、土地利用の増進等が、街区単位を基本として促進されるよう、まちづくりの先導的な役割を担うべき地区です。

民間事業者の投資意欲を刺激し、それを連鎖的に波及させることにより、都市のスポンジ化の解消や老朽建築物の更新を促進し、エリアの価値向上を目指します。

脱炭素推進エリア

脱炭素推進エリアは、ゼロカーボンシティの実現や持続可能な都市環境モデルの創出のため、脱炭素化に向けた取組を推進する地区です。

脱炭素は、地域の魅力と質を向上させる地方創生に貢献できる取組であり、脱炭素推進エリアに設定することで、民間投資を促進させ、より一層のまちなかの賑わいを創出しながら、エネルギー消費の少ない持続可能な都市基盤の形成を目指します。